

平成 26 年 9 月 9 日

南の風 75

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

全中の女子決勝戦について感想を書きます。北九州市立折尾中学校（福岡）VS津島市立藤浪中学校（愛知）の対戦となりました。結果を書きます。

折尾	1Q	14	－	9	藤浪
	2Q	18	－	8	
	3Q	20	－	14	
	4Q	19	－	26	
	計	71	－	57	

ずばり折尾の強さが際立ちました。戦前の自分の予想は、藤浪の2連覇でした。藤浪の4番のゲームメイク力、5番のスリー、6番（178cm）、10番（178cm）のポストとバランスのとれたオフェンス布陣を見ると、隙がないように感じたからです。折尾については、会場の関係で予選のゲームを観ることができませんでした。折尾は九州大会準優勝でした。優勝は、同じ北九州の二島（ふたじま）でした。二島は決勝トーナメント2回戦で藤浪に敗れています。

ここで折尾の強さについて書きます。一番のポイントは、8番のインサイドプレーです。裏でループパスを受けてのシュートや、ローポストでのスピントーンシュートの決定率が素晴らしかったです。手の長さの特徴を生かした、柔らかいタッチのシュートは安定感抜群でした。身長177cmということですが、藤浪のセンターよりも高く感じました。また、15番（171cm）とのハイロープレーも機能していました。15番のセンターは、中だけでなく外角のシュートにも安定感がありました。

そしてすべての場面でゲームコントロールしていた、5番のフロアリーダーとしての活躍を見逃すわけにはいきません。ビジョン、パス力、ドリブルワークは見事の一言でした。特に藤浪の4番との1対1の対決は、とても中学生とは思えないすばらしいものでした。ディフェンス、オフェンスの攻防やかけひきは、多くの中学生、あるいはミニバスのプレーヤーの参考となるものでした。

一方藤浪は、1Qから得意の6番、10番のハイロープレーを折尾の8番と15番に崩され、得点のびませんでした。4番も果敢にドライブで攻めますが思うようになりません。準決勝までの得点力が封じられ、焦りからか、やや強引なシュートになってしまいました。藤浪は後半、展開を何とか打開しようとオールコートマンツーマンプレスに出ます。はまる場面も何回かありましたが、折尾の5番の冷静なボール運びを決定的に崩すことはできませんでした。折尾がうれしい11年ぶりの優勝を飾りました。

さて全体を振り返ります。やはりバスケットボールの攻めは「中と外」なのだということを痛感しました。折尾も藤浪もしっかりしたセンターを有していることも、もちろんあります。しかし、ポストプレーを押えられた時に、外への合わせやドライブプレーへとつなげることが、大事であることをこのゲームから学ぶことができました。最後に、「ポストをどう守るか」という課題が出た気がしました。難しいディフェンスの一つです。次回考えてみたいと思います。